



遠大勵志

折居麻綾さん(66回生)

ロールモデル表彰

【5/10岩手日報記事 抜粋】

総合人材サービスのパーソルホールディングスが新しい働き方のロールモデルを表彰する「PERSOL Work—Style AWARD 2020」に、北上しらゆり大使を務める脳神経外科医兼ファッションデザイナーの Dr まあやこと折居麻綾さんがパラレルキャリア部門を受賞した。

折居さんは3歳から高校生まですべて北上市で過ごし、岩手医大を卒業。脳外科医として10年勤務し、幼少期から興味があったファッションデザイナーを目指してロンドンに留学した。帰国後は医師の傍ら、独創的なデザインを生み出し、19年にはカナダ・バンクーバーで作品を発表した。

世界で活躍できるデザイナーという目標に掲げる折居さんは「感染症の拡大で今までの働き方も一変している。今自分ができることを考え、次のステップに進む準備をしていきたい」と力を込める。今回は7部門7人が表彰された。

折居麻綾さんは本校 OB で、2018年5月1日に行われた開校記念講演会に、講師としてお招きした方です。3年生は1年生の時に、「みなさん、こじんまり生きていませんか？～北上から世界へ！夢を持つのは自由です～」という演題で講演を聞きました。覚えていますか？

折居さんは、医師として働いていた34歳の時、偶然電車の中で、専門学校の「海外芸術大学留学オープンキャンパス」のポスターを見て、ファッ



ションデザイナーの勉強をしようと思いつき、ロンドンのセントラル・セント・マーチンズに入学。1年間学んで帰国。帰

国後は慶應義塾大学の関連クリニックで脳外科医として働き、週2日はファッションデザイン、土日は根室市に出向き当番医として地域医療に向き合う生活をされています。

脳外科医とファッションデザイナーを両立させているこの状況を、折居さんは「医者だけやっている」と医者の嫌な部分が、デザイナーとしても厳しい部分が見えてくる。両方やるから医者の良い面とデザイナーの良い面が見えてくる」と話されていました。現在は、「Dr まあやデザイン研究所」を巣鴨にオープンして作品を発信しており、私たちには型にはまらず自由に物事を



考え、決めたならば後悔しないように頑張ること、文武両道に励むことの大切さを伝えていただいたことを、記事を見て思い出しました。

「パラレルキャリア部門」は、形にとらわれず様々な働き方で社会に貢献しているグッドワークスタに贈られる賞のようですから、まさに折居さんにぴったりの賞です。

パラレルキャリア・・・なかなかできることではありませんが、やりたいことのどちらかを選択するのではなく、どちらもやろうとする気持ちを大事にすることを、折居さんには先輩として教えていただきました。